

小栗家住宅について

○ 煎茶趣味が横溢する近代和風の豪邸

小栗家住宅 12棟

主屋、書院及び茶室、北座敷、西誓院、隠宅及び竹の間、辰巳蔵、乾蔵、文庫蔵、新蔵、
道具蔵、表門

所在地：半田市

所有者：個人

指定基準：意匠的に優秀なもの

【概要】

半田市の中心部に位置する。近世から醸造業・肥料商で財を成した小栗三郎兵衛家が、幕末から明治にかけて整備した屋敷群。とくに隆盛を誇った明治前期に建てられた主屋は大規模で、豪壮かつ繊細な仕上げが為された梁¹組を持つ土間は見応えがある。また、主屋や隠宅の座敷や茶室は、数寄屋²風意匠と、煎茶³文化の影響とみられる中国風意匠を巧みに取り入れ、意匠的に優れている。広大な敷地には多数の付属建物が残り、いずれも質が高い。半田の繁栄を物語る近代和風の豪邸として評価される。

梁¹ 建物の水平方向にかかる構造部材

数寄屋² 茶席・勝手・水屋などが備わった茶の湯のための建物。

煎茶³ 茶葉を乾燥して粉末にした抹茶に対して、茶葉を湯に浸して成分を抽出する「煎じ茶」。



小栗家住宅 主屋煎茶室（撮影 麓和善）